

Kunai for Android 脆弱性診断結果

1 概要

2018年1月09日から2018年1月18日に、ゲヒルン株式会社様にて Kunai for Android の脆弱性診断を実施いただきました。本資料にて診断結果を公開いたします。

2 検査結果サマリ

今回の検査では脆弱性は検出されませんでした。

3 検査対象について

2018年1月にリリースいたしました Kunai for Android について、診断を実施いただきました。検査対象の機能は以下の通りです。

- アドレス帳のシンク機能
- メールをフォルダ間移動する機能
- Garoon へのプッシュ通知機能
- パスワードの有効期間を設定する機能

4 診断観点について

以下の観点で診断いただきました。

診断項目	説明
データの安全な保存	認証情報やトークンなど利用者の秘密情報を保存する場合、第三者アプリが読み取れない場所に情報を暗号化して保存しているかを検査します。
暗号化通信	認証情報やトークンなど利用者の秘密情報をリモートサービスと送受信する場合、暗号化通信を使用しているか、及び通信先の検証が行われているか検査します。

入出力値検証	アプリケーションが SQL や XML 等を使用する場合には、SQL インジェクションや XML インジェクション等の可能性を検査します。また端末内のファイルパス指定可能性等が確認された場合は、ディレクトリトラバーサル等の可能性を検査します。
ロジック	特定機能の利用やポイント処理等がローカル側での判断に依存する可能性を検査します。
認証	端末 ID や SIM カード ID などの偽装可能な識別情報のみで利用者認証を行っていないか検査します。
アプリ間連携	別のアプリと連携するための仕組みを使用している場合、情報漏えい、サービス妨害、又は権限逸脱行為などの不正行為を別のアプリから行なうことができるか検査します。
重要情報の意図しない出力	認証情報やトークンなどの利用者の秘密情報、又はプライバシーに関わる情報が、プラットフォームや第三者ライブラリの仕組みやデバッグ機能の残余によって、意図せず保存、リモートサービスに送信されている可能性を検査します。
暗号	暗号化を行う場合、採用する暗号キー、アルゴリズム、又はロジックに問題がないか検査します。
機密情報のハードコード	暗号キー、API キー、又はパスワードなどがハードコードされていないか検査します。